

# 第5回 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会 議事概要

## ●第5回 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

- ・日 時：令和6年2月14日(水) 15:00~17:00
- ・場 所：四万十市防災センター会議室
- ・出席者：四万十市長、中村商工会議所会頭、(一社)四万十市観光協会会長、(一社)中村青年会議所理事長、四万十つるの里づくりの会会長、四万十川自然再生協議会会長、国土交通省中村河川国道事務所所長
- ・講 師：千葉県いすみ市長
- ・事務局：中村河川国道事務所、(公財)日本生態系協会

## ●開催状況



## ●議事

- ・「四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況」、「今年度の取組報告及び来年度の取組の方向性」について議論した。  
また、コウノトリを活かした地域づくりに取り組まれており、関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会に参画されている千葉県いすみ市との意見交換会を行った。

## ●主な意見

### □来年度の取組の方向性について

- ・ 四万十川流域でのツル類の越冬にあたって、一番大きな問題がねぐらである。デコイを設置し、田んぼに水を張る代替ねぐら環境の創出により、ナベヅルがねぐらとして利用することが確認されたので、来年度以降も継続していきたい。
- ・ 小学校の学校間交流は意見交換を行い、有意義な時間だった。来年度以降もこのようなオンライン授業を継続していきたい。

### □千葉県いすみ市との意見交換会について

- ・ いすみ市では、新規就農者への教育として、地域おこし協力隊を有機農業の研修に当てている。また、農林水産省の就農準備資金・経営開始資金（農業次世代人材投資資金）を活用し、地域おこし協力隊と合わせて、8年は何らかの金銭的な支援を受けながら自立できるようにしている。
- ・ いすみ市は、コウノトリが定着していないため、地域のシンボルにはならなかったが、学校給食を通じて子どもたちに有機米を提供していることを前面に出して商品展開している。商品のストーリーをつくることが重要である。四万十市にはツルが飛来しているため、有機米にツルを絡めたストーリーをつくることもあり得ると思う。

- ・ 地域は人の集合体であり、人の集合体の最小単位が家族、そして家族の中心は子どもである。いすみ市では、普及啓発の効果が高い子どもたちに向けた教育活動に時間や労力を割いており、子どもたちの反応を見て、大人の価値観が変わっていくように仕掛けている。地道な取組を重ねた結果、かなりの人から支持が得られていると思う。いすみ市では生物多様性地域戦略を策定しているが、政策や取組を通じて、市民へ生物多様性を普及していきたい。